

岐阜県立羽島北高等学校

学 校 長 石田 達也
学校所在地 岐阜市柳津町北塚3-1-10 電話 058-388-3611

1 会議の名称 岐阜県立羽島北高等学校評議員会 (第1回)

2 会議の構成 学校評議員

市野 和之 (株)トヨタオートモールクリエイト取締役
大北 有花 P T A会長
杉山 英子 柳津佐波女性の会
三輪 浩子 羽島北高等学校同窓会
吉村 光弘 柳津町まちづくり協議会事務局長

(五十音順)

学校側

石田 達也 校長
西村 美穂 教頭
竹花 容子 事務長
庄司 幸宏 教務主任
白木 宏司 進路指導部長
村上 宏俊 生徒指導部長
郡 美穂 特別活動部長
竹尾 真希 研究推進部長

3 会議の目的 学校運営について地域住民や有識者等から幅広く要望や意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
(岐阜県立羽島北高等学校学校評議員設置要綱第1条)

4 会議の開催 令和元年6月26日(水) 13:00~15:00 会議室

5 会議の概要 (1) 校長挨拶
(2) 参加者紹介
(3) 本校の現状と求められる学力観
(4) H K Tふるさと教育概要説明
(5) 生徒のボランティア活動紹介
(6) 協議
(7) 校長お礼

(1) 羽島北高校「ふるさと教育」の、総合的な探究の時間を中心にした地域課題探究について

学校：地域課題探究型学習について現在模索中である。これは、生徒が、「総合学習」の授業を中心に、グループ毎にテーマを決め、フィールドワークを取り入れながら探究活動を行うものであるが、テーマとする地域課題についてご意見・ご助言をいただきたい。

意見1：人口の増減や外国人研修生の数、高齢化率など、この地域に特徴的な要素がある。それらをテーマとして取り上げるとよいのではないか。

意見2：生徒に課題を見つけさせるためには、まず教員がこの地域にどんな課題があるのかを研修する必要がある。

意見3：ショッピングモールは、地域社会の縮図であり、買い物弱者や人材不足による外国人研修生の雇用などのテーマは、企業として取り組んでいるものである。ここに高校生が参画するということもできる。地元企業として高校生の地域課題学習に協力していきたい。

(2) 羽島北高校「ふるさと教育」の、地域ボランティア活動について

学校：地元の方々が本校生徒の地域ボランティア活動に期待することは何か。

意見1：境川堤の要桜は江戸時代から地元の人々の憩いの場であった。時代とともにさびれてきたので高校生の力を借りてぜひ復活させたい。緑道公園まで芝桜を植えるなどして、有名なスポットにならないかと考えている。地域の経済の活性化にもつながる取り組みである。

意見2：食事やゲームやお芝居を行う地域の取組があるので参加してほしい。

意見3：柳津町ではまちづくり協議会で地域と行政と一緒に取組を進めている。「どんとこいこい祭り」にも今年度は羽島北の生徒が大勢参加してくれた。学校と地域の連携は生徒の人間力を上げるうえでも重要である。

意見4：高校生に「地元が故郷」という意識を持ってもらえるようになることが大切だと思う。また、高校生との交流で涙を見せるほど心を動かされる老人もいる。細く長くやっていただけるものがあるとよいのではないか。

学校：地域の方々と高校生が取り組みを紹介して意見交換することや、行政とつながることは可能か。

意見5：公民館等を利用して交流を深めていくことは可能。行政への働き掛けも可能。

(3) 羽島北高校が「ふるさと教育」を進めようとしていることについて

意見1：生徒たちは多くの人々に支えられており、様々な取組の中で達成感を感じている。また、自分で課題を見つけて仲間とともに活動をしていくという取組にも期待できる。学校としてこの取組を推進してほしい。

質問：ふるさと教育と新しい大学入試への対策は両立するのか

回答：今の高校2年生から新大学入試制度が始まり出題形式も変わる。新しいテストでは、吸収型の知識だけではない探究型の学びが求められる。ふるさと教育における探究型の学びは推薦・AO入試が多くなってきている中で進路実現にもつながっていく。

6 会議のまとめ

今回は「HKTふるさと教育」について様々な示唆や提案をいただいた。

まず、カリキュラムとして行う地域課題探究学習については、これまでの課題学習と大きく違って、教員から与えられた課題ではなく生徒自ら問を立てるところからスタートするというところに難しさがあるという点が話題になった。また、その指導について教員自らが地域課題について理解を深め、よい感覚を持っていることが必要だということが指摘された。また、実際の地域課題として、企業がテーマとして取り組んでいることに大きなヒントがあるということが示唆され、企業との共同研究もありうるというご提案をいただいた。さらに、探究活動の進め方や評価についてもご示唆をいただき、イメージを持つことができた。

一方、課外活動としての地域ボランティア（HKTゆいまーるプロジェクト）については、現在行っている活動について高い評価をいただいた。さらに、単発ではなく継続的な取り組みになっていくことを期待するという声や、地元の人々との連携についてアドバイスをいただいた。

今回、ご指摘ご助言いただいたことをもとに、一層充実した教育活動を展開していきたい。